



## [ 寄稿 ]

### 活躍する女性へのメッセージ～女性の貧血

田口 博國 理事（研究担当）



女性の貧血の原因で最も多いのは鉄欠乏によるものである。1 ml の出血があると鉄が 0.5 mg 失われるため、成人女性で 30ml の月経出血があるとして計算すると、男性より 1 日 0.5mg（15mg/30 日）の鉄が余分に必要であり、成人女性の鉄の必要量は 1 日 1 - 1.5mg となる。さらに女性は妊娠、授乳の期間中は子供の発育のために、男性より 1 - 2mg の鉄を余分に必要とする。従って女性では思春期から始まって閉経期を迎えるまで常に鉄欠乏の危険にさらされる。



日本の女性では普通の食生活では量的に男性の 2 倍の食事がとれる人はなく鉄が不足気味になる。また鉄を多く含む食品としてよくひじき、レバー、カツオ、ほうれんそうなどがあげられるが、こうした食品ばかりを毎日多量とることのできる女性はないであろう。さらに月経量の個人差は大きいと自覚していないことも多い。また妊娠中や出産後に貧血が発見された人は食事からの鉄の摂取が不足していたことを示している。貧血の症状は顔面蒼白、動悸、息切れ、めまい、倦怠感、脱力感などがある。そのほか鉄欠乏性貧血特有の症状としては舌の痛み、炎症、爪の変形、食べ物の飲み込みにくさなどがみられることがある。また味の好みの変化がおこって、辛いものや酸っぱいものが好きになったり、冬でも氷をかじりたくなるということもある。また貧血の起こる前から潜在性の鉄欠乏（これは貯蔵鉄といって筋肉などの組織内の鉄が貧血より先になくなるため起こる）の症状として頭痛、不眠、肩こり、冷え性、腰痛、疲れやすさといった不定の症状が長く続くことがある。

日本人の普通の食事では鉄の多い食品を増やすよう心がけるくらいでは鉄を十分にとることは困難で、私は一度貧血を起こしたことがある人や潜在性の鉄欠乏と考えられる人には食卓にいつも鉄剤（薬局やスーパーで市販されているものでよい）をおいておき、週に 1 度くらいを更年期を迎えるまで飲み続けるよう勧めている。そうすれば女性特有の体質とあきらめていた潜在性の鉄欠乏の症状はなくなり、これまでと見違えるくらい元気になれる。多くの働き盛りの女性が潜在性鉄欠乏の症状を持っていて十分な活躍ができていないことは大きな国民的損失ではないだろうか。鉄を積極的に補給して女性にもっともっと元気で快適な生活を送ってほしいと願っている。



本学での男女共同参画の推進やワーク・ライフ・バランスについて地域協働学部長にインタビューを行いました🎙

- Q1 ご自身のワーク・ライフ・バランスについてどう思われますか？
- Q2 貴学部ではどのような男女共同参画の取組が必要だと思われますか？
- Q3 女性研究者へのメッセージをいただけますか？

**上田 健作 地域協働学部長**

A1

恥ずかしい話ですが、現在、私自身は「ワーク・ワーク・バランス」の中で暮らしているようです。仕事の優先順位を決めて、「ライフ」を維持するという基準でワークとライフをバランスさせるように妻からも強く言われていますが、現実はなかなか厳しい。妻いわく「ゆとりは自分が作り出そう」という意思を持たねば、自然に出てくるものではない。」もっともなことです。反省。反省。

A2

教員の男女比が同程度になることが教育上も理想なのではないでしょうか。地域協働学部は、開設2年目にしてようやく24名の専任教員が全員そろいます。嬉しいことです。さらに嬉しいことに女性教員が1名増えます。実のところ、1名が2名になるだけなのですが、長期的にみれば女性教員の数が増える必要があると思います。

そして、まだまだ女性教員を取り巻く職場環境については不十分な点が多々あると思います。地域協働学部は、特に教員が「忙しい」学部です。ワーク・ライフ・バランスへの配慮はもとより、男女を問わず教員間の風通しをよくして働きやすい職場環境を維持してゆかねばならないと思っています。

A3

地域協働学部は、今も申しましたように、女性教員の数が少ない状況にあります。男女共同参画と言う点で男性教員が見落としがちなのが多々あると思います。職場環境を改善するために気づいたことや要望がたくさんあると思います。公式、非公式を問わず遠慮なく発言していただきたいと思います。



吉尾寛人文学部長、藤田詠司教育学部長、鈴木知彦理化学部長、杉浦哲朗医学部長、石川勝美農学部長のインタビューを掲載した「しあわせぶたん NEWS LETTER Vol.4 (2014年9月発行)」をはじめ、バックナンバーが必要な方は、男女共同参画推進室までご連絡ください。男女共同参画推進室のホームページからPDFデータをダウンロードすることもできます。





四国5大学連携による  
共同研究プロジェクト  
支援事業を実施しています

四国5大学連携による「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」では、女性研究者が研究代表者となり、他大学の女性研究者と共同で行う学術研究プロジェクトに対して、研究費を支援しています。これにより共同研究の円滑な実施を促し、四国地域の女性研究者の研究力向上を図ることを目的とします。平成27年度は高知大学から2件のプロジェクトが採択されました。

研究代表者	研究題目	共同研究者	支援金額
中島 喜美子 (高知大学医学系 臨床医学部門 准教授)	Dorfman-Chanarin 症候群における TRV 受容体刺激による表皮リパーゼ活性依存性表皮ホメオスタシス	藤山幹子 (愛媛大学准教授)	25万円
田井 麻美 (高知大学医学部附属 病院次世代医療創造セ ンター 特任講師)	新倫理指針に基づく実践的モニタリング手法とモニター育成プログラムの構築～四国モニタリングシステム・メソッド～	片島るみ (徳島大学助教)、山下梨沙子 (愛媛大学主任薬剤師)、土居あかね (愛媛大学臨床検査技師)、宮脇和美 (愛媛大学看護師)、鈴木聖 (香川大学薬剤師)、川島弓枝 (高知大学特任准教授)、二宮仁志 (高知大学特任准教授)	25万円

採択者インタビュー 田井麻美 特任講師

Q1 共同研究プロジェクト支援事業を利用した感想を聞かせてください。

一昨年の10月に本学に赴任し、新倫理指針に対応すべくモニタリングについて考えているところ、丁度よいタイミングで支援事業に採択されました。

私の研究は数値データだけではなく、研究者の考えが含まれる中で裏づけをとる手法なので、いろんな価値感をもつ方との話し合いを重ねながら研究プロジェクトを実施しています。高知大学単独で

はなく、四国5大学で共同研究することによって、地方大学のモデルとなるメソッドを構築したいと考えています。

このプロジェクトを通じて今後の自分の成長とキャリアアップにつなげていきたいと思っています。

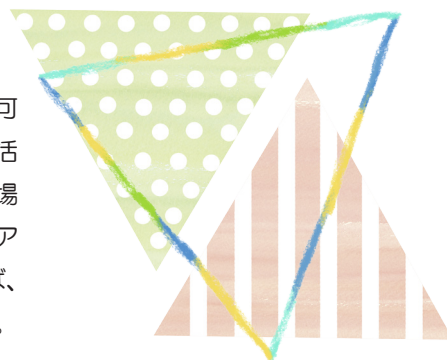
Q2 研究内容を教えてください。

臨床研究は、①倫理的にも②科学的にも信頼性が保たれているものでなければなりません。モニタリングとは、研究が適正に行われることを確保するため、研究がどの程度進捗しているか並びに研究計画書や各手順書および関連法規、関連する指針に従って行われているかについて、研究責任者が指名した「モニタリング従事者」に行わせる調査です。

そのモニタリングの計画立案やモニタリング従事者の指導・管理は研究責任者にあります。しかし、地方大学では研究者へのモニタリングについての教育プログラムは個々に任せられており、モニタリング従事者の養成講習も拠点大学のように進んでおりません。また、自主臨床研究が主である地方大学では拠点大学と同じようなプログラムでは実情に即しません。そのため、まず①研究者へのヒヤリングや②モニター候補者へのアンケートを実施することによって、モニタリング体制の現状と課題を明らかにしたうえで地方大学にあったモニタリング教育、モニター育成教育プログラムを構築しようと考えました。

Q3 本学の女性研究者支援に必要なことは何だと思いませんか？

ワーク・ライフ・バランスが大事です。それには職場、家族の協力が不可欠ですし、世代に応じた協力体制も考えなくてはなりません。チャンスを活かさない状況にある女性が多いと思います。子育て中であれば、職場や職場近くの託児所なども大切ですし、子育て終了後の女性についてもキャリアアップのチャンスが必要です。生涯にわたり女性が活躍できる場があれば、若い女性達の目標も出来て、女性がイキイキすることができると思います。





# 平成27年度 共通教育科目「男女共同参画社会を考える」


高知大学では平成27年9月24日から26日の各日1～5限に、共通教育科目「男女共同参画社会を考える」を実施し、110人の学生が受講しました。受講生は男女共同参画社会について、日本社会の現実的課題を通じ、人文社会科学の多様な観点から学びました。

【開講期間】平成27年9月24日～26日 各日1～5限

【授業概要】男女共同参画社会について、日本社会の現実的課題を通じ、人文社会科学の多様な観点から学びます。

 <p>Calamusの眞行氏(左)と宮野下シリュウ氏(右)</p>	9月24日(木) 1限	オリエンテーションと男女共同参画の基本	人文学部 中川香代
	2限	法律から見た男女共同参画	教育学部 藤本富一
	3限	年金制度から見た男女共同参画	人文学部 西島文香
	4限	育児から見た男女共同参画	人文学部 岩佐和幸
	5限	音楽から学ぶ男女共同参画	パーカッション・パフォーマンス・デュオ Calamus

	9月25日(金) 1限	男女共同参画とジェンダーの考え方いろいろ	人文学部 武藤整司
	2限	家族から見た男女共同参画	教育学部 森田美佐
	3限	こうち白熱教室 「働くこと」「仕事をするこ とを考えてみよう」(1)	立教大学 萩原なつ子
	4限	こうち白熱教室 「働くこと」「仕事をするこ とを考えてみよう」(2)	立教大学 萩原なつ子
	5限	哲学から見た男女共同参画	男女共同参画支援ステーション長 小島優子

	9月26日(土) 1限	男女共同参画のキャリアデザイン	(公財)日本女性学習財団理事 福沢恵子
	2限	ロールモデルによるパネルトーク	【コーディネータ】 同、福沢恵子
	3限	ライフキャリアを考える 1 (ディスカッション)	【ファシリテータ】 同、福沢恵子
	4限	ライフキャリアを考える 2 (ディスカッションの発表とまとめ)	同、福沢恵子
	5限	高知大学の男女共同参画	男女共同参画推進室長 廣瀬淳一

「こうち白熱教室」と「男女共同参画のキャリアデザイン」は、男女共同参画推進室とこうち男女共同参画センター「ソーレ」が協同で企画し、共通教育「男女共同参画社会を考える」の集中講義と共同で開催しました。



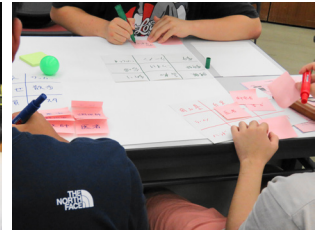


## 「こうち白熱教室」を開催しました

平成 27 年 9 月 25 日、立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科の萩原なつ子教授をお迎えして、「こうち白熱教室」を開催しました。「こうち白熱教室」のテーマは「働くということ」。

「こうち白熱教室」の前半は、萩原先生ご自身の経験談をもとに男女共同参画と仕事、これからの働き方としてパラレルキャリアについて説明がありました。そして、後半では「自分らしく働く」ことについて参加者みんなで考えました。グループに分かれて、「複数の顔を持つ架空の人物」をチームのメンバーで話し合いました。グループの話し合いでは、「キャピンアテンダントで僧侶」など面白いアイデアも聞かれました。

このグループワークは、ワールド・カフェ方式を採用して行われました。はじめの話し合いが終わると、各グループのメンバーは 1 名を残して他のグループに「旅人」として散らばり、アイデアを異花受粉する者や、他のグループで得た「学び」をもとのグループに持ち帰る者が出てきて、初めのグループでの話し合いをさらに深めることが出来たようです。



## 「男女共同参画のキャリアデザイン」を開催しました



平成 27 年 9 月 26 日、(公財)日本女性学習財団の福沢恵子理事をお迎えして、「男女共同参画のキャリアデザイン」を開催しました。仕事の現場と男女共同参画について福沢先生の講義を聞いたのち、地域から 3 名の人生の先輩にロールモデル紹介としてそれぞれのキャリアについてお話しいただきました。講義と諸先輩のお話を聞いた後で、「自分らしい働き方」をテーマにグループで話し合いました。

ロールモデル紹介では、株式会社インターナカツの日浦武常務取締役が、企業経営者の視点から仕事と生活が両立できる職場環境についてお話し下さいました。そして、学校法人高知学園の渡辺一平教諭からはご自身が 2 度、育児休業を取得された経験から気づいたことについてお話がありました。最後に、株式会社ファースト・コラボレーションの別役和美本部長は、育児と仕事の両立を実現するために職場で考えた助け合いの経験について紹介下さいました。

また、2 コマを使ってのグループワークでは、福沢先生の指導のもと、講義でこれまでに学んだことを総合して、「仕事を選ぶ上で大切にしたいこと」について考え、



グループ毎にその成果を報告し合いました。

男女共同参画、キャリア、仕事と生活の両立は、知識として学ぶことも重要ですが、その知識を活かすためにも、自分たちが当事者であることのリアリティを感じる、異なる世代、同世代と話し合い、課題を共有し合うことの大切さに気づいた 6 時間のセミナーでした。

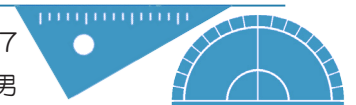


## 企画展示 “私たちの「生き方・働き方」2015 ～「男女共同参画社会を考える」の授業から～”



男女共同参画推進室では、平成 27 年 11 月 9 日～ 27 日に企画展示 “私たちの「生き方・働き方」2015 ～「男女共同参画社会を考える」の授業から～” を開催しました。

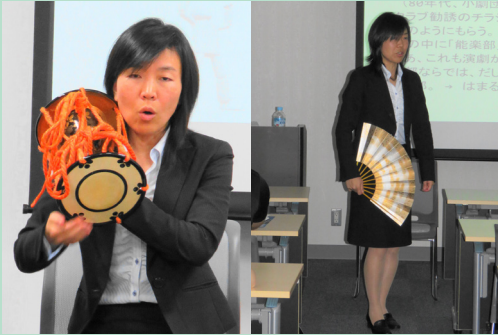
「こうち白熱教室」、および「男女共同参画のキャリアデザイン」のグループワークの中で参加者が作成した模造紙を展示することで、作業を参加者が振り返り、展示を見た人が男女共同参画について考えるきっかけを作りました。







**ロールモデル講演会  
「やりたいことをあきらめない  
～転んでも前を向く～」を開催しました**



平成 27 年 6 月 3 日、男女共同参画推進室は、高知工業高等専門学校の永原順子准教授を招き、学生のキャリア支援を目的とするロールモデル講演会を開催しました。永原さんも、色々なご縁から何人ものロールモデルに出会ったことが、ご自身の夢の実現につながったようです。特に絶大な影響を受けたのが SF 作家の小松左京さんです。小松左京さんの出身校を調べたところ、それが京都大学文学部であることが判明。「小松左京さんが学んだ大学なら面白くないはずがない」と受験を決め、みごとに合格します。入学後「能」がクラブでできるの？楽しそう！なんかありそう！という直感が働き、能の世界に足を踏み入れたそうです。

学部の卒業を控えて、大学院進学希望はあったものの、どのようなテーマで研究すればよいのか悩んでいたところ、「環境・人間学」という研究科が新設されると知り、能を軸にして、その背景にある精神的、宗教的な側面を研究したいと、宗教民俗学の先生に直接相談に行きます。そして、ご縁から妖怪博士として知られる小松和彦先生の仕事を手伝ったことで、国際日本文化研究センターの機関研究員として、妖怪データベース作成のプロジェクトに携わるチャンスが訪れました。永原さんは、自分の好きな妖怪を勉強して、それを教えて生活できる職業は少ない。研究者の仕事はすごく好きだと語りました。

男女共同参画推進室では、平成 27 年 4 月 15 日に第 6 回ワーク・ライフ・バランス講座「介護デビュー応援セミナー あなたは遠距離？近距離？」を開催しました。講師には、多くの介護経験者への取材を行ってこられた NPO 法人パオッコの太田差恵子理事長を迎えて、介護の不安や悩みを解決するためのお話をして頂きました。

豊富な事例のなかから、介護と仕事の狭間にある人が、両親やきょうだいとのコミュニケーションを通して、親をささえるためのプロジェクトを作成する手順が紹介されました。①介護の課題を探り、②介護保険を申請し、③情報収集をして、さらに④親族や親の身近な人、介護・福祉の専門職とチームを組んで、役割分担を決めます。さらに、⑤介護資金をプランするにあたっては、普段の親との対話があってこそ、親のお金について聞き出すことができるという点が指摘されました。

**「介護デビュー応援セミナー  
あなたは遠距離？近距離？」  
を開催しました**



**「科研費獲得の方法とコツ」  
セミナーを開催しました**



平成 27 年 9 月 10 日に、男女共同参画推進室では研究国際部研究推進課と共催で「科研費獲得の方法とコツ」セミナーを開催しました。講師には、久留米大学分子生命研究所の児島将康教授をお招きしました。児島先生は、ご著書『科研費獲得の方法とコツ』がベストセラーになり、第 4 版が発行されました。

藤本富一安全・安心機構長による挨拶では、高知大学における競争的資金の獲得の状況について説明がありました。小島優子男女共同参画推進室准教授による趣旨説明では、科研費と女性研究者支援について説明がありました。「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」の一環として、高知大学では女性研究者の科研費獲得率の向上を目標としており、ライフイベントと研究の両立を男女共同参画推進室が支援しています。講師の児島将康先生からは、科研費の申請書の書き方や申請書全体の作成のポイント、図の使い方、応募分野の選択などについてたいへん分かりやすく説明していただきました。





男女共同参画推進室では、平成 27 年 11 月 25 日に「リーダーのためのコーチングセミナー～女性研究者と女性管理職を育てる～」を開催しました。講師には、加地照子氏を招きました。加地氏は、BCS 認定プロフェッショナルビジネスコーチ、WABC(Worldwide Association of Business Coaches) 正会員です。

「リーダーのためのコーチングセミナー」を開催しました

本学では「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」の一環として、女性研究者の管理職登用を推進しています。今回はコーチングを学ぶことによって、これからリーダーになる教職員の方や、リーダーとして部下や後輩を育成する方を対象として、周囲とのより良いコミュニケーションの構築や指導力の向上を図りました。コーチングを通じて信頼関係を築き、チームビルディングのスキルを磨くことを目標とします。



はじめに、私たちがコーチとなるにあたって望まれることについて説明がありました。参加者は価値観リストなどを用いて自己分析を行いながら、リーダーシップとコーチングについて楽しく学ぶことができました。コーチングのロールプレイにも挑戦することによって、コーチングを実践的に学びました。参加者の 96%が講演会は役に立ったと回答し、とても満足度の高い講演会となりました。



センター試験託児実施報告

平成 28 年 1 月 16 日、17 日のセンター試験の際に、高知大学は教職員のための託児室を開設しました。教育学部の幼児教育コース実習室で、子どもたちは楽しく遊ぶことができました。



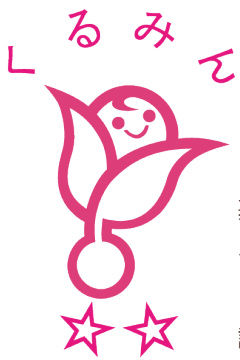
本学では、センター試験のほか、土日に入試を実施する日、オープンキャンパスにも教職員のための臨時託児室を開設しています。

四国 5 大学連携メンター制度は、四国 5 大学の女性研究者（メンティ）が抱える諸問題や将来のキャリア形成に関し、その自発的な解決に向けて、四国 5 大学のよき指導者、助言者（メンター）の支援を受けることができることを目的とした、四国 5 大学の組織横断的な連携・ネットワークによるメンター制度です。本制度を活用し、四国 5 大学の研究者間においてネットワークを広げ、自身のキャリア形成に役立ててください。詳細は、男女共同参画推進室までお問い合わせください。

四国 5 大学連携メンター制度を実施しています



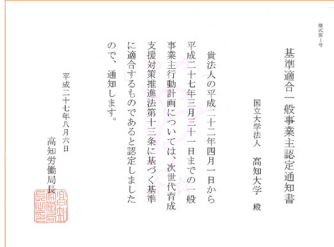




## 次世代認定マーク（愛称：くるみん）を取得しました

高知大学は平成 27 年 8 月 6 日付けで、高知労働局より次世代育成支援対策推進法第 13 条に基づき、基準適合一般事業主（子育てサポート企業）の認定を受け、次世代認定マーク（愛称：くるみん）を取得しました。

これは「一般事業主行動計画（第 2 期）」を策定し、行動計画期間中に、4 つの目標すべて達成し、認定基準をクリアしたことから、取得することができたものです。



また、平成 27 年 6 月 1 日には、第 3 期行動計画を高知労働局へ提出いたしました。

今後も職員が、仕事と子育て・介護とを両立させることができ、全ての職員が働きやすい職場環境をつくるために協働していきましょう。

### 一般事業主行動計画（第 2 期）

職員が、仕事と子育てを両立させることができ、職員全員が働きやすい環境をつくることによって、全ての職員がその能力を十分に発揮できるようにするため、次のように行動計画を策定する。

#### 1. 計画期間

平成 22 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日までの 5 年間

#### 2. 内容

目標 1 仕事と子育ての両立できる職場環境を整備するための取組を行う

##### 〈対策〉

・男女共同参画推進のための委員会を設置し、職員からの要望、課題の洗い出しを行い、働きやすい職場環境の整備を行う。

目標 2 育児支援制度の活用を推進する。

##### 〈対策〉

・育児支援制度の内容について、グループウェア等を活用した周知・啓発を行う。

・男性職員の育児のための連続休暇及び育児休業等の取得を促進するため、当該制度の活用について、積極的に啓発を行う。

目標 3 育児休業取得者がスムーズに職場復帰できるよう、育児休業期間中も学内の情報提供を行う。

##### 〈対策〉

・育児休業取得者に対し、メールや学内誌等により学内情報等を提供する。

目標 4 超過勤務の縮減の取組を行う。

##### 〈対策〉

・超過勤務縮減の重要性について、会議等を通じて管理者及び職員に対し啓発を行う。

・超過勤務縮減に対する取組を各部署で策定し、実施する。

・「ノー残業デー」の実施を推進する。

### 一般事業主行動計画（第 3 期）

職員が、仕事と子育て・介護を両立させることができ、職員全員が働きやすい環境をつくることによって、全ての職員がその能力を十分に発揮できるようにするため、次のように行動計画を策定する。

#### 1. 計画期間

平成 27 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日までの 5 年間

#### 2. 内容

目標 1 仕事と生活の両立を支援する取組を行う。

##### 〈対策〉

・休日の入試業務にあたり、一時託児の制度を行う。

・研究支援員制度の実施。

・両立コンシェルジュデスクによる相談受付

目標 2 業務の効率化と超過勤務の縮減の取組を行う。

##### 〈対策〉

・仕事と生活が調和できる職場環境を整備するために、管理職及び一般職員に対して啓発を行う。

・業務の効率化と超過勤務縮減について、会議等を通じて管理者及び職員に対し啓発を行う。

目標 3 育児・介護等の支援制度の活用を推進する。

##### 〈対策〉

・仕事と育児・介護の両立を支援するために、育児・介護の支援制度について、グループウェアの活用、冊子の発行等によって周知・啓発を行う。

・当該制度を活用しやすくするために、管理職及び一般職員に対して積極的に啓発を行う。

・仕事と育児・介護の両立について、両立コンシェルジュデスクを通じて相談受けや情報提供を行う。

目標 4 育児・介護と仕事の両立について、男性の参画を推進する。

##### 〈対策〉

・男女共同参画は女性の活躍促進だけでなく、男性の働き方や意識改革との両輪で推進する取組であることを啓発する。





## 「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」（平成 26 ～ 28 年度）の達成目標！

平成 26 年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」では、徳島大学を代表機関、香川大学、愛媛大学及び高知大学を共同実施機関とし、鳴門教育大学も含めた四国国立 5 大学が連携して女性研究者支援を行っています。

### 達成目標 1 女性研究者の研究力向上

- 女性研究者科研費採択率を平成 25 年度以上に！

高知大学女性研究者科研費採択率		
	新規+継続	新規
H25	40.9%	20.3%
H26	38.5%	15.3%

- 女性研究者の研究業績数を平成 24 年度以上に！

高知大学女性研究者（H24）	
講演発表数	学術論文数
162	844

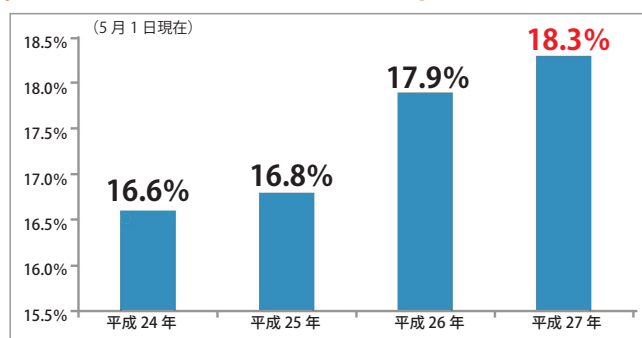
研究業績数をカウントしますので、女性研究者の方は大学ホームページの「高知大学研究者総覧」および「教員の自己点検・評価」ウェブシステムへの研究業績のを入力をお願いします！



### 達成目標 2 女性研究者の上位職への登用推進

- 教育研究評議会評議員の女性を 3 人以上に！ → 4 人達成！（平成 27 年度）
- 女性研究者採用者数・在籍者数の増加と離職率の減少

### 高知大学女性研究者比率の推移



学内の意識推進の結果、高知大学の女性研究者比率は順調に増加しています。



### 研究支援員利用者の上野大勢准教授と元研究支援員竹本侑馬さんらの研究成果が Nature Plants に掲載されました

研究支援員制度を利用している上野大勢准教授（総合科学系生命環境医学部門）と岡山大学との共同研究グループによる研究成果が、「Nature Plants」（Nature Publishing Group 刊行）に 2015 年 11 月 9 日に掲載されました。上野准教授は、イネの生育に欠かせないマンガンの吸収に必要な排出型輸送体タンパク質 OsMTP9 を世界で初めて突き止めました。この論文には、上野准教授のもとで研究支援員をしていた竹本侑馬さん（現岡山大学大学院生）も共著者として執筆しています。上野准教授は平成 24 年度から研究支援員制度を利用し、竹本さんは本学農学部在学中の平成 24 ～ 25 年度に研究支援員として研究支援をしました。

論文タイトル：A polarly localized transporter for efficient manganese uptake in rice

著者：Daisei Ueno, Akimasa Sasaki, Naoki Yamaji, Takaaki Miyaji, Yumi Fujii, Yuma Takemoto, Sawako Moriyama, Jing Che, Yoshinori Moriyama, Kozo Iwasaki and Jian Feng Ma

高知大学 男女共同参画推進室 しあわせ ぶんたん

〒780-8520 高知市曙町二丁目 5 番 1 号 国立大学法人高知大学 総合研究棟 3 階

【☎】 088-888-8022 【☎】 088-888-8023 【✉】 sankaku@kochi-u.ac.jp 【🌐】 <http://www.kochi-u.ac.jp/sankaku/>

平成 28 年 3 月発行

